

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	ここ数年、消防訓練に加え自然災害への対策を強化しているが、以前のように運営推進会議で訓練を実施する等、地域に協力してもらうような取組をしていない。	防災訓練について、外部にもその取組をアピールし、実際に災害が起きた時にスムーズに協力してもらえるような取組を行う。	運営推進会議にて、消防訓練を行い、家族にも参加を呼びかける。また、家族会の中で訓練の詳細を伝え、災害対策に力を入れていることを理解してもらう。	12ヶ月
2	36	通常、接遇の視点からは、職員は入居者に名前に「～さん」と敬語で話すの基本だが、家庭的な関係作りの中であえて「じーちゃん」等の呼び方をするケースがある。だからと言って、職員はなあなあにならず、常に尊厳を理解して、接遇を行うことが求められる。	職員全員が接遇の知識を共有した上で、個々の入居者へどのような接遇を行うか明確にする。	法人の委員会の研修を、職員全員にきちんとフィードバックし、業務に反映させた上で、熊本弁や愛称での呼び方を日々の中で考えていく。	6ヶ月
3	10	現在、新型コロナウイルス感染予防のため家族の面会を禁止しており、家族会も中止となった。このため、家族からの意見、要望を聞く機会が減少している。	新型コロナウイルス問題が落ち着いたら、再び気軽に足を運んでもらえるホームにすること、家族と職員が意見交換できる機会を作っていく。	家族会や誕生会のような行事や日々の面会の中で家族が話しやすい関係を作り、日頃の意見や感想を聞くような取組を行っていく。	12ヶ月
4	6	就寝中の入居者が居室を出たとき遠くから見守ることができるように、一部の入居者の居室のドアに鈴をつけているが、入居者の尊厳を考慮しているか定期的に検討する必要がある。	間近で監視しないように、そして事故防止の観点からこうした対策をとっているが、定期的に必要かどうかをチェックして、不要な時期がきたら、迅速に撤去する。	鈴の使用について、個別に管理表をつくり、定期的に今後必要かどうかを検討する。	12ヶ月
5	11	法人全体の委員会活動や勉強会を充実させていることの代償として、るしだ職員同士の定例会議の回数が減った。これでは職員の意見が中々業務に反映されない状況になってしまう。	次年度は、職員で話し合う時間を増やし、それをサービスの向上につなげていく。	定例会議の開催日を職員が集まりやすいよう工夫する。今後は会議の開催を継続できるように努める。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。